

2025 年 11 月 5 日 発行

第 16 号

工務部会 こうむ NEWS

J R 東労組（東日本旅客鉄道労働組合）
工 務 部 会
東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-24-1
代々木総合事務所 5 階
NTT 03-5315-0941 JR 058-4112
発行人 杉本博輝 発行 編集委員会

第 1 回 保線関係職場意見交換会を 開催しました！！（その 1）

10 月 19 日、本部会議室を本会場で盛岡・大宮・長野を WEB で繋ぎ、第 1 回保線関係職場意見交換会を開催しました。会議の前半に安全特化して原因究明委員会を開催してきました。出された特徴的な意見についてお知らせします。

○事象○

- ①中 央 線 西国分寺駅において、列車進来中に線路を横断した事象
- ②武蔵野線 府中本町駅において、分岐器調査に気を取られ汽笛吹鳴を受けた後にで待避した事象
- ③東北本線 郡 山 駅において、軌道変位調査を行うために移動中に待避誤りした事象

安全 + 第一



【出された意見】

- 土日の人員が少ないなかで行わなければならないのか
→平日に現場に出る余裕がない、土日で現場に行く機会が増えた
- 線路を横断するルールよりも ＴＣ列警のルールを守らなければならない
- 本来の巡視ルートではなく線路を横断してまで乗る場所ではない、職場内で常態化しているのではないか
- そもそも一人で出来る調査ではなく、見張員が作業員として現場に出ていないか
- 職場がグループというよりは個人任せとなっている
- 連絡員も、どういう情報を与えるといいのか、わかっていない
- ルールが厳しくなり、夜勤が増え、コミュニケーションが取れず、個人での作業が増え、結果的に守れるルールが守れなくなるという悪循環になる

盛岡では、現場で不安に思った若手が先輩に相談し、先輩は安全担当と共に疑問を解決に向けて意見を出し合って不安を解消してきた教訓的な発言もありました。時間の関係もあり、原因究明や対策まで議論することができず、継続で議論することとしました。

「勇翔 2034」ではグループ理念から『安全』が消えました。

会社は「『安全』は安心の言葉の中に大前提として高い次元にあり、ＪＲ東日本グループの安心と信頼のために安全は不可欠である前提に立ってビジョンがある」としていますが「『安全』がトッププライオリティ」となっているのでしょうか。

今一度、職場から『安全』が何よりも優先される風土をつくり出しましょう！！

今後、対策に向けて継続して議論を行っていきます！！

**安全で安心して働ける職場を未来に残すためにも
ＪＲ東労組に結集しよう！！**